

トルコギキョウの2～3月出し

新品種・系統の比較



写真1 審査会の様子



写真2 1等特受賞「M5-A-888」

表 2～3月出しトルコギキョウ審査会受賞新品種・系統の特性^{z)}

等級	品種・系統名 (種苗会社名)	花色	花形	葉先枯れ 発生株率 (%)	発蕾日 ^{y)} (月/日)	節数 ^{x)} (節)	開花日 ^{w)} (月/日)	草丈 ^{v)} (cm)	側枝数 (本/株)	有効 ^{u)} 花蕾数 (個/株)	ブラスチング 小花発生率 (%)
1等特	M5-A-888 (株)サカタのタネ	緑	八重・大輪・ フリッジ	0	12/19	14.8	2/18	83.8	2.8	6.6	10.3
2等	MEX15-672 (株)ムラカミシード	ライトピンク	八重	0	12/15	14.0	2/10	88.4	2.9	6.5	3.7
2等	TU-806 (タキイ種苗株)	白	中大輪	0	12/ 6	11.9	2/ 5	81.3	2.6	7.7	15.8
3等	マリーナマリン (タキイ種苗株)	白/紫	覆輪・中大輪	0	12/15	15.3	2/13	88.8	2.8	10.6	10.5
3等	サブリーナオレンジ (住化農業資材株)	濃オレンジ	八重・小中輪	0	12/10	13.6	2/15	80.6	2.9	9.4	21.0
3等	M18-4 (株)ミヨシグループ	ライトピンク	八重	0	12/19	16.1	2/13	73.9	2.9	6.7	20.7
3等	モンロー (タキイ種苗株)	ライトピンク	大輪	0	12/21	16.0	2/16	95.5	2.4	8.8	2.8
3等	14YEU18 (八江農芸株)	白	八重・大輪・ フリッジ	0	12/23	15.0	2/27	102.5	2.7	7.6	17.5

z) 2017年7月12日に播種、かん水後10℃暗黒下冷蔵庫内で3週間冷蔵処理。その後冷房育苗室内(6:00～19:00を25℃、19:00～翌6:00を15℃)で8週間育苗し、9月27日に定植。

y) 頂花の蕾を上から肉眼で確認した日の平均。

x) 頂花着花節までの節数。

w) 1輪以上の開花が認められた日の平均。

v) 株元から開花した2次小花の頭までの長さ。

u) 正常に発達した花蕾の数。

トルコギキョウでは毎年多くの新品種・系統が種苗会社から発売されています。生産者がいち早く有望品種・系統を選択し、適切な栽培管理を行って高品質のものが生産できるよう、当センターでは新品種・系統について、適応性、生育・品質特性の調査を行っています。2017年度には日本種苗協会から受託した2～3月出し作型向けの29品種・系統について調査を実施しました。

また、その調査ほ場は全日本花卉品種審

査会場を兼ねており、審査後にはほ場を公開し、多くの生産者、関係者に観覧していただきました。今回は8品種・系統が受賞し、いずれも基準となる条件の開花時期(2～3月中)、草丈(70cm以上)、有効花蕾数(6個以上)、ブラスチング小花発生率(25%以下)をクリアしていました(表)。

当センターではトルコギキョウの主要な作型において、同様の試験を今後も継続して実施する計画です。

(花き担当 山田美保江 088-863-4918)